



漁業調査指導船

江の島丸コラム

サバの資源調査が始まりました！

こんにちは！江の島丸船長の榎沢です。

今年の冬は結構寒い日が多いですね。冬といえば三崎の寒サバ！早いもので、今年も伊豆諸島のサバたもすくい漁が始まりました。

昨年のコラム (<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/816842.pdf>) でも書いた様に、近年はマサバの資源量が回復基調にあるため、今年はかなり漁模様が期待されています。

全体的にはサイズが小型化していますが、漁期始めの今は型の良い魚も多く、脂の乗りも良いマサバはゴマサバの数倍もの高値を付ける事もあるため、回遊してくるマサバの群れをいち早く見つけて漁業者に情報提供するのが江の島丸の大きな仕事です。

今回は、2月4日(土)のサバ資源調査の概要を紹介したいと思います。まさにサバの最新情報です！

① 09時30分：三崎港出港

餌、砕氷の積込みを終え、大島南海域に広がる大室出し漁場に向けて三崎港を出港します(漁場の位置に関しては、前回の私のコラム(上の URL)にある海図を参考にして下さい)。巡航速力 11.5 ノット(時速約 22 km)で約 3 時間の行程です。

② 12時20分：大室出し到着、調査開始。

魚群探知機の反応は弱く、立て縄(一本釣り)やサビキによる試し釣りでマイワシ、ウルメイワシがぼつぼつ釣れる程度で、サバの魚影が無いため漁場を移動します。

③ 14時30分：利島の東沖到着

魚群探知機の反応は濃いが、立て縄やサビキの試し釣りにマイワシ、ウルメイワシが主体で 30cm 位のゴマサバが混じる程度、漁になる状況ではないので、新島西側海域のヒョウタン瀬向け移動します。

④ 17時30分：ヒョウタン瀬到着

先ほどの利島東沖と同様に魚群探知機の反応は濃いものの、立て縄やサビキの試し釣りにマイワシ、ウルメイワシが主体で 30cm 位のゴマサバが混じる程度で漁になる状況ではありません。三宅島方面へ移動します。

前回(1月25～26日)のサバ調査の時も大島～利島～ヒョウタン瀬では空振り、最後に三宅島南西側の三本漁場で25～35cm位のゴマサバを約5トン漁獲しています。三宅島周辺の漁場に最後の望みを託して移動開始です。

⑤ 18時50分：式根島南海域を三宅島向け航行中。

神奈川県船をはじめ、千葉県船、静岡県船が三本漁場に集結している模様です。無線より「マサバ確認」との一報も入ってきました。

南東の風3m、海上穏やかにて絶好の漁日和！期待も高まります。三宅島へ急げ！

⑥ 20時15分：三宅島西側沖到着、調査開始

魚群探知機の反応を確認したため、試し釣りを省いてコマセをまき始めると間もなく船上からサバの魚影を確認しました。時間の経過と共に群れも濃くなり、たもすくい操業開始！サバたもすくい漁の操業の様子は前回の私のコラムに動画をアップしてありますのでご覧ください (<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/kakubu/kanri/enosima-maru/enosima-tamo.wmv>)。

やはり魚体は全体的に小ぶりですが、マサバの群れに当たり乗組員のタモ網を持つ手にも気合が入っているようです。

⑦ 22時30分：4マイル程南の三本漁場に移動、調査再開。

ここでもマサバの群れに当たりました！。

⑧ 03時00分：調査終了

サメがやってきて、サバの群れを蹴散らすようになりました。これでは漁にならず、調査終了とします。船を三崎漁港に向けて走らせます。

⑨ 08時45分：三崎漁港到着

研究用の検体を差し引いて5.6トンを三崎魚市場に水揚げしました。

マサバの来遊が確認でき一安心です。この後、マサバはしばらく伊豆諸島周辺海域に留まり、栄養を蓄えて春の産卵に備えます。この間に漁獲されたサバが脂の乗った美味しい「寒サバ」として首都圏各地に供給されます。

寒サバは巻き網や棒受網でも獲れますが、三崎の漁業者はたもすくい漁で獲ります。これは、魚群を間引くようにたも網ですくい取る、資源に優しい伝統漁法です。一網打尽に大量に漁獲することも無いため、漁獲後の取扱いもきめ細かく行われ、とても良い状態で市場に水揚げされます。まさに「三崎の寒サバ」は資源にも優しく新鮮で優れた品質のお勧め品です！街の魚屋さんやスーパーで「三崎の寒サバ」を見かけたら、手に取って迷うことなく買い物かごの中へ！絶対のお勧め品です！味噌煮、塩焼き、照り焼き、空揚げ、棒寿司、何で食べてもおいしいですよ！

写真は当日漁獲されたマサバです。：脂が乗っておいしそうです！

